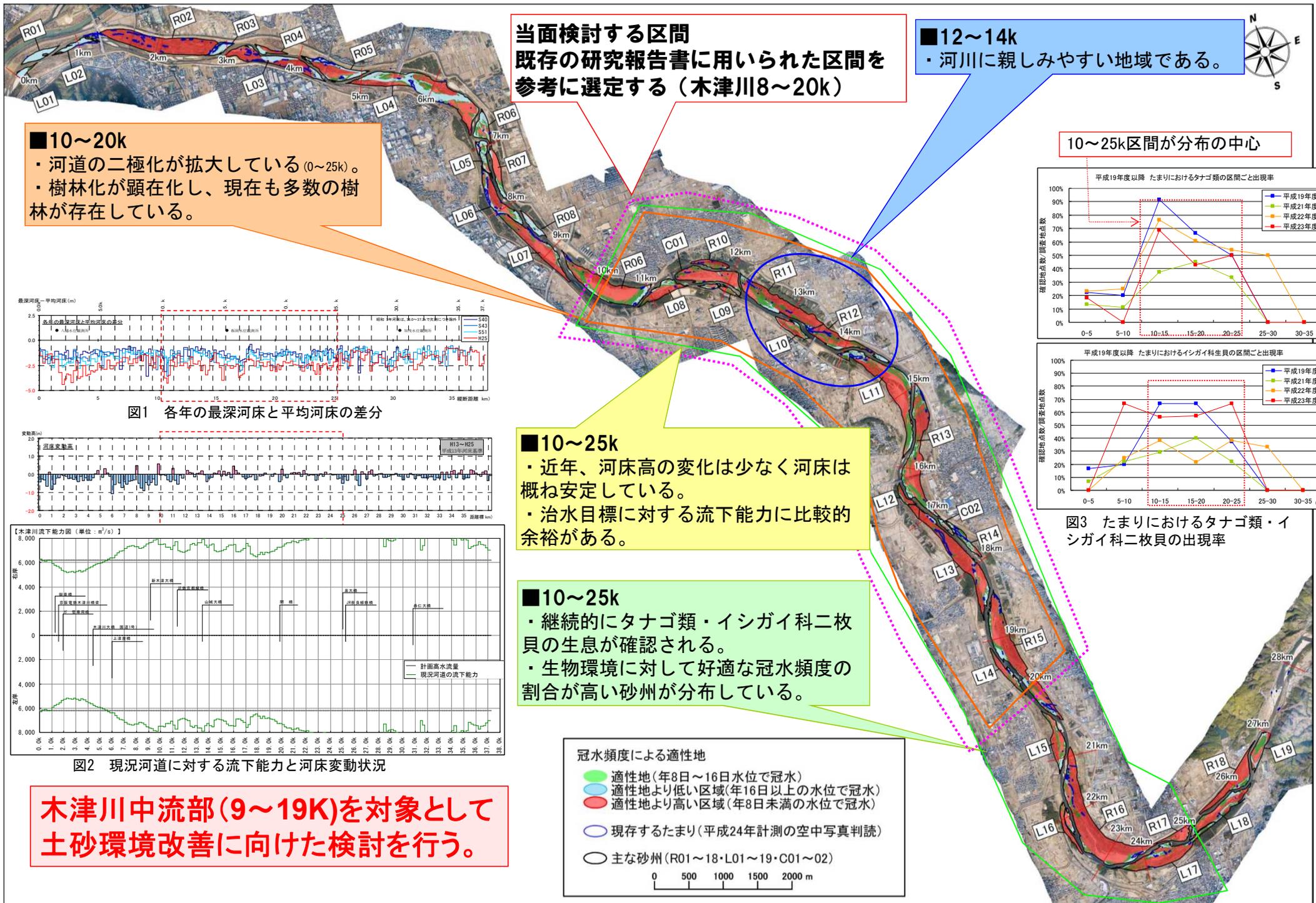


# 1. 土砂環境の課題整理

土砂環境の現状	課題
河道の二極化	<p>【砂州の固定化】により、シナダレスズメガヤ(要注意外来生物)が侵入している。</p> <p>【みお筋の河床低下】に対し、淵が増えて礫河床を好む魚類等が存在し、礫河床の保全が必要。</p>
たまり・ワンドの環境の変化	<p>【みお筋の河床低下】により、ワンド・たまりの冠水頻度が変化し、タナゴ類やイシガイ科二枚貝の生息場に影響が及ぶ。</p> <p>【河床材料が粗粒化】した場合、タナゴ類やイシガイ科二枚貝の生息場に影響が及ぶ。</p>
樹林化などの陸域の環境変化	<p>【砂州の陸域化】により、陸域植生が増加し、河原を好む種(コアジサシ等)に影響が懸念される。</p>
	<p>【砂州の陸域化】により、樹木が増加し水際へのアクセスが難しく、親水性が損なわれている。</p>



# 2. 検討における重点区間



**■ 10~20k**

- ・河道の二極化が拡大している(0~25k)。
- ・樹林化が顕在化し、現在も多数の樹林が存在している。

**当面検討する区間**  
 既存の研究報告書に用いられた区間を参考を選定する(木津川8~20k)

**■ 12~14k**

- ・河川に親しみやすい地域である。

10~25k区間が分布の中心

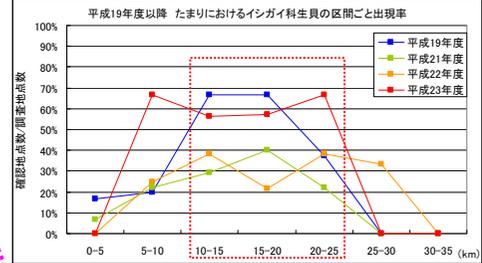
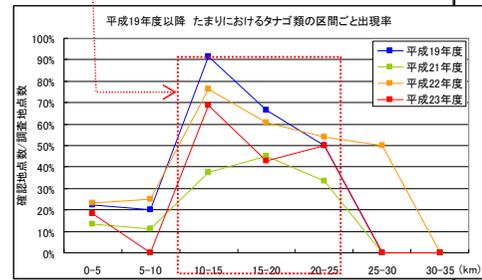
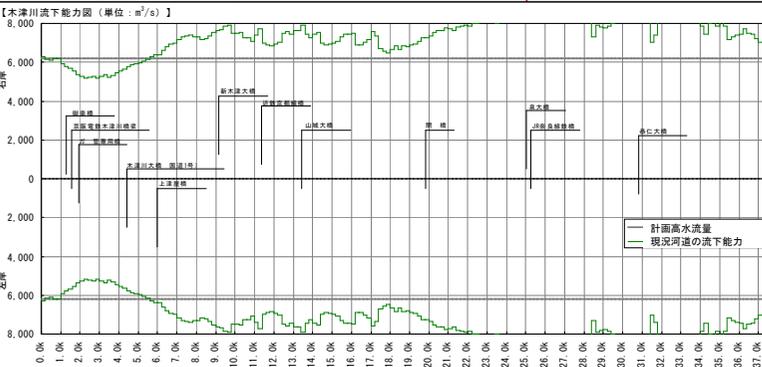
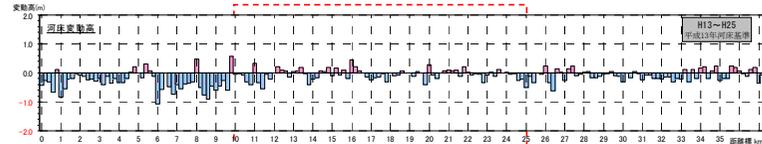
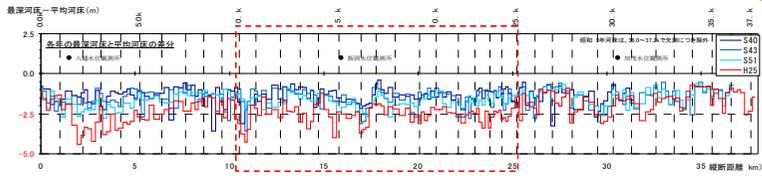


図3 たまりにおけるタナゴ類・イシガイ科二枚貝の出現率



**木津川中流部(9~19K)を対象として土砂環境改善に向けた検討を行う。**

**■ 10~25k**

- ・近年、河床高の変化は少なく河床は概ね安定している。
- ・治水目標に対する流下能力に比較的余裕がある。

**■ 10~25k**

- ・継続的にタナゴ類・イシガイ科二枚貝の生息が確認される。
- ・生物環境に対して好適な冠水頻度の割合が高い砂州が分布している。

冠水頻度による適性地

- 適性地(年8日~16日水位で冠水)
- 適性地より低い区域(年16日以上の水位で冠水)
- 適性地より高い区域(年8日未満の水位で冠水)
- 現存するたまり(平成24年計測の空中写真判読)
- 主な砂州(R01~18・L01~19・C01~02)

0 500 1000 1500 2000 m

# 3. 土砂環境改善に向けた方向性

## ■土砂環境改善に向けた目標

- ・S50年代から砂州が現位置に固定化し、H2年頃の植生域がその後拡大した。
- ・H2年頃はタナゴ類が多く確認されていた。
- ・S54年頃は中央粒径2mm程度であり、砂河床であった。



- 平成初期のワンド・たまり(砂河床)や礫河原の再生・保全を目指す。
- 現状では礫河床を好む種(魚類等)が生物多様性や水産資源を支えているため、礫河床の瀬の保全・創出も併せて検討する。

## 木津川の土砂環境改善に向けたロードマップ(イメージ)

期間	土砂環境改善に向けた方針	具体的な対策(案)	対策範囲	評価手法
短・中期 (10年程度)	・みお筋の河床高是正 ・ワンド・たまりおよび瀬の保全・創出	・竹ジャカゴの設置 ・みお筋の埋め戻し	・9k~19kの間で1K程度の区間を3箇所抽出し、対策を検討する	・二次元河床変動計算モデルによる評価 ・モニタリングによる効果検証
	・砂州の陸域化抑制 ・砂州の固定化抑制	・樹木伐採 ・固定化砂州の掘削		
	・みお筋の河床高是正	・ダムの上砂還元(試験施工)	・ダムでの対策	・モニタリングによる効果検証
長期 (30年程度)	・木津川下流の全川的なみお筋の河床高是正および河床材料の細粒化	・ダムの上砂還元による土砂供給量増加	・ダムでの対策により木津川河道0k~37kの改善を狙う	・一次元河床変動計算モデルによる評価 ・モニタリングによる効果検証